

サル痘 偏見と差別避けよ

新型コロナウイルス感染症のパンデミック(世界的大流行)が収束しない中、世界保健機関(WHO)は動物由来のウイルス感染症「サル痘」が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態(PHEIC)」に相当すると宣言し、世界に警告を発した。

サル痘は欧米を中心とした75カ国の1万6千人以上に広がっていたが、日本国内でも感染者が確認された。2020年の新型コロナウイルスに続き、WHOの緊急事態宣言は7回目となった。

WHO緊急事態宣言

長崎大学教授 山本 太郎



やまもと・たろう 1964年広島県生まれ。長崎大卒。アフリカや中米で感染症対策に従事。専門は国際保健学、熱帯感染症学。

サル痘は天然痘と同じオルソポックスウイルス属のウイルスによって引き起こされる。1970年にアフリカのザイル(現コンゴ)で人への感染が初めて報告された。アフリカに生息するリスなどの齧歯類がウイルスの自然宿主ではないかと疑われている。そこから感染したサルなどから人にうつることもあるため、この名前が付けられた。

サル痘は天然痘と同じオルソポックスウイルス属のウイルスによって引き起こされる。1970年にアフリカのザイル(現コンゴ)で人への感染が初めて報告された。アフリカに生息するリスなどの齧歯類がウイルスの自然宿主ではないかと疑われている。そこから感染したサルなどから人にうつることもあるため、この名前が付けられた。

またアフリカなどで流行していた従来のサル痘と比べると、今回の流行では発熱しない人がいたり、病変が局所的に偏在したりするケースがみられるなど臨床像がやや異なっている。疾患に関する科学的情報が多分未知の側面が多いため、広く注意を呼びかけるべきだと判断したとみられる。

ただ今回の感染例の多くは、男性と性的な関係を持つ男性に集中している。より安易に広がったが、爆発的に広がる効果的なワクチンや治療薬の開発は必要だが、有効なワクチンはすでに存在する。正しい対策を適切なグループに対して行えば感染拡大を止めることができる。子どもや女性など少数の感染例はあるが、限られた集団で流行しているうちに対処すれば封じ込めが可能だ。

一方、さまざまな変異を重ねながら世界のすみずみにまで広がった新型コロナウイルスを封じ込めるのははや不可能だろう。

テドロス氏は宣言後の記者会見で「偏見と差別はどんなウイルスよりも危険になりうる」と強調した。偏見と差別は人権を侵害し、対応を阻害する。テドロス氏の指摘する通り「幸いに私たちに対応できる手段があり、一致団結してそれらを用いれば感染をコントロールすることは可能だ」。

感染から発症までの潜伏期間は通常1〜2週間。発熱や頭痛が続いて顔面や手足に多くの発疹が出現するのが特徴となっている。既存の天然痘ワクチンが80%以上の有効性

ただ今回の感染例の多く

は、男性と性的な関係を持つ男性に集中している。より安易に広がったが、爆発的に広がる効果的なワクチンや治療薬の開発は必要だが、有効なワクチンはすでに存在する。正しい対策を適切なグループに対して行えば感染拡大を止めることができる。子どもや女性など少数の感染例はあるが、限られた集団で流行しているうちに対処すれば封じ込めが可能だ。

